

2024春闘妥結にあたってのバス東北本部見解

JR東労組バス東北本部の24春闘は、2月27日に申5号「2024年度賃金引上げ等に関する申し入れ」を行い、急激な物価上昇やコロナ禍における会社施策、そして今まさに各職場が深刻な要員不足となっている中で私たち組合員・社員が奮闘している生の声を高め、その声を基に交渉に臨んできました。そして3月27日の第3回交渉において、定期昇給の実施、プロパー社員一律4,500円のベースアップ、契約社員の基本日額に200円を加えるとの回答を受けました。

ベースアップに関しては、過去最高額の回答ではあったものの、トラック・バス業界全体の待遇改善が求められる昨今の情勢や、同業他社との人材獲得競争、そして今まさに要員不足によって休日出勤・助勤・長期に渡る単身赴任などで奮闘している私たちの思いや、コロナ禍を乗り越え新たなステージに向かおうとする社会とバス東北会社の発展に期待する思いなど、各職場から寄せられた声には届かなかつたため、席上妥結せず持ち帰り、組織内で議論を重ねてきました。

今24春闘において各職場から寄せられた声は、コロナ禍による最も苦しい時期において定期昇給が減額されても会社施策に向き合い、相次ぐ退職者によって要員が不足しながらも、何とかこの会社を良くして退職者を出さないようにしようと耐えてきた組合員・社員の「労働実感」でした。そして、急激な物価上昇によって子育て世代や単身赴任者、泊り行路を担う乗務員の生活が苦しいという「生活実感」から、春闘の意義である賃金の底上げが欠かせないという声が多くを占めてきました。しかしそれらに加えて、今24春闘の議論が深まっていった先に「バス職場の将来を見据えた人材確保・定着」への思いがあったことを忘れてはなりません。コロナ禍の数年間にジェイアールバス東北会社の魅力が減ったことで退職者が相次ぎましたが、特に同業他社へ若年層の人材流出が相次いだ受託事業所では、将来にわたって不安の無い安定した収入や勤務によって退職者を止めると同時に、新たな採用に繋げるためにも待遇を改善させる必要性を議論してきました。

ジェイアールバス東北会社の経営状況は、効率的な運行や費用の見直しなどによって2022年度に4年ぶりの黒字決算となり、その後もコロナ感染症が第5類に移行された昨年5月以降の社会活動の本格的な再開によって業績が大幅に回復し、2年連続の黒字が見込まれております。この先も会社が持続的に発展していくには人材の確保・定着は欠かすことはできず、要員不足で職場が疲弊することがあってはなりませんし、私たちも暗い職場を認めることはできません。だからこそ、満額回答に届かなかつたことは悔しさがあります。

今24春闘のたたかいでは、改めて人材の大切さについて議論してきました。その上でバス東北本部は、これからも「人材流出を防ぎ、雇用と職場を守り抜くためのバス東北本部緊急提言」を実践し、魅力ある職場をつくり出していきます。4月5日の分会代表者会議で、今24春闘でベースアップについて要求額には及ばなかつたものの、更なる労働条件向上や夏季手当など、次のたたかいへと繋げることを確認し妥結の判断としましたが、私たちは立ち止まることはできません。青森エリアのインバウンド需要への対応や相次ぐ自然災害による列車代行輸送といった会社施策、物価が上がり続ける生活など社会全体が常に変化していく中で、コロナ禍の時のように私たちの生活が犠牲にならないよう、これからも組合員・社員の声で「安全・健康・ゆとり」を基軸とした明るく魅力ある職場をつくり出しましょう。

最後に、これまで支えて頂いたJR東労組の仲間と家族に感謝するとともに、今後も共にたたかうことを約束し見解とします。

2024年4月5日
東日本旅客鉄道労働組合
ジェイアールバス東北本部